

平成 28 年 10 月
高等教育研究機構 制定
平成 30 年 6 月
国際未来教育基幹 一部改定

千葉大学「次世代型人材育成計画（Garnet Plan）」

はじめに

千葉大学においては、平成 25 年 4 月、千葉大学憲章に示された教育に関する理念・目標に基づき、千葉大学全体の教育のあり方を検討・審議する研究機能も有する組織として高等教育研究機構（機構長：教育担当理事）を設置しました。

また、平成 27 年 7 月に「千葉大学ビジョン」を策定するとともに、本年 4 月に国際未来教育基幹（基幹長：学長）を設置し、世界水準の教育実践と次世代型人材の育成に取り組んできました。

本学では、法人化後、段階的に教育改革を推し進めてまいりました。具体的には、平成 18 年 4 月から普遍教育センター設置による全学出動体制の普遍教育の実施（第 1 フェーズ）、19 年 4 月から同センターが中心となった新カリキュラム開発・実施（第 2 フェーズ）、23 年 4 月からアカデミック・リンク・センター設置による空間・人・コンテンツ開発による学生の学習支援（第 3 フェーズ）、さらに 28 年度から国際教養学部設置による実践的かつ社会的なグローバル人材の育成（第 4 フェーズ）を行ってきました。

千葉大学は、第 3 期中期目標期間を通じて、本学の基本理念である「つねに、より高きものをめざして」を基本としつつ、国際社会で活躍できる次世代型人材^{*}を養成するための学士課程から大学院課程の横断的な教育改革を行い、とりわけ研究型総合大学として、何よりも大学院教育の充実こそが社会の要請と考え、大学院教育を中心に見直しに着手します。具体的には、これまでの実績を踏まえ、大学院における教養教育の充実によるイマジネーション（発想力、直感力）の育成（第 5 フェーズ）、さらに大学院教育を専門知識に軸足を置きつつも、従前の文系・理系の概念にとらわれず、知のフロンティアや新たな価値を創造・開拓し、社会に貢献する「知のプロフェッショナル」の育成（第 6 フェーズ）へと大きく舵を切ります。

※ 次世代型人材とは、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、社会の様々な分野においてリーダーとして、国際社会で活躍できる人材をいう。

1. 学士課程における教育改革

本学の学部教育では、多様な研究・教育組織による知的環境を十分に利用することによって、自己の専門的能力を地球社会と地域社会の持続的な発展のために役立てることができ、専門領域に関して体系的に修得した知識・技術・技能をもとに、直面する状況における問題解決に向けた実証的・論理的思考を展開し、イノベーション創出につなげることができる人材を育成します。

このため、学生が能動的な学びによって普遍的な教養を身につけ、自立して、自らの良心と社会的規範に則って行動し、創造性・国際性とチャレンジ精神に富む人材育成を推進するための取組を実施します。（具体的な取組例）

全学的な教育改革方針の策定、学生の満足度、ステークホルダーによる評価などに基づく教育改善、基礎的・汎用的能力の教育に資するアクティブ・ラーニング型科目の実施、海外派遣留学生数の増加 等

2. 大学院課程における教育改革

本学の大学院教育では、個性ある教育プログラムによって、国内外の多様な文化・価値観、社会、自然、環境について理解し、国内外の社会と連携し活動する際には基礎となる地球規模的な視点からのイマジネーションを実現できる能力及び柔軟な思考能力とコミュニケーション能力を持つことにより、自己の専門領域の深い学識に加えて、学際的で幅広い視野に立った学識を持ち、それを活かして直面する課題の解決に向けた柔軟な思考と深い洞察を行い、イノベーション創出に貢献することができる人材を育成します。

このため、大学院課程教育における高度な教養教育の方針を、イノベーションとグローバル化の観点よ

り策定、明確化し、高度教養教育を実施するとともに、大学院を中心に教育研究組織（文系、理系、工学系）の再編・整備を行って文理混合の大学院を創設します。

（具体的な取組例）

「生命科学系」「理工系」「文系」の各分野における共通教育やチーム教育の実施、理工系大学院における「先進科学プログラム」をはじめとする一貫教育の実施、ダブル・ディグリー・プログラム等の実施、大学院課程における英語による教育コースの設置、海外の高等教育機関との交流プログラム実施、大学院レベルの教養教育の実施、文理混合大学院の創設 等

3. 学士課程から大学院課程を通じた教育改革

学位の国際通用性を高めるため、教育のグローバルスタンダードへの対応を更に推進し、国内外の専門家の意見を取り入れて、教育実践手法の改善を行い、社会の様々な分野においてリーダーとして活躍できる次世代型人材を育成します。

このため、学長のリーダーシップの下、学士課程から大学院課程を通じて自ら改善、発展する仕組みを構築するとともに、グローバルスタンダード化を実現し、教育の国際通用性を高め、世界水準の教育実践により、次世代型人材を育成するため、社会の変化やグローバル化に対応した教育研究の展開及び強みや特色を伸ばし、社会的な役割を果たすため、大学全体の教育改革を促進します。

（具体的な取組例）

次世代型人材育成のための全学的教学マネジメントの整備、国際未来教育基幹及び基幹キャビネットによる海外の優れた教育実践事例の導入及び最適化、教育に関する継続的な評価システムの確立、3つの方針の見直し 等

4. 入試改革及び学修・学生支援に関する改革

多様な学生を選抜するため、新しい入試システムを構築します。

また、学生の修学、生活、進路等に関わる相談、支援をきめ細かに実施できる体制を充実し、安全かつ健やかで豊かな学生生活の実現を支援します。

このため、入試実施体制の再編成等により、新しい入試システムを構築し、多様な学生を選抜するための多様な入試選抜方法を採用します。

また、学生の修学、生活、進路、障がいのある学生に関するニーズ把握し、相談、支援をきめ細かに実施できる体制を組織し、継続的に推進します。さらに、学業と実践との調和ある教育により、学生の高い就業意識を育成するとともに、就職相談、就職指導等の支援を推進し、学生の主体的な進路選択によるキャリア設計を支援します。

（具体的な取組例）

入学者選抜における資格・検定試験の活用、特色ある入試の実施、SULAの育成・配置、学修・生活・進路等の学生相談支援体制の整備、障がいのある学生の学生相談実施体制の整備、就職支援体制の整備 等

（参考）国際未来教育基幹に設けられた9つのセンターのビジョン

国際未来教育基幹キャビネットの下に設けた9つのセンターが、教育改革等の企画、実施や学修・学生支援に取り組みます。

イノベーション教育センター

学部教育・大学院教育の施策の企画・開発に関する業務及びスマート・ラーニングを行うことを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「継続的な教育体制・内容の見直し」を掲げています。

全学教育センター

普遍教育、大学院共通教育、イングリッシュ・ハウス及び全学教職センターに関する業務を行うことを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「全学教育の総合的な見直し」を掲げています。

国際教育センター

外国人留学生及び海外に留学する日本人学生に対する支援方法の開発及び実施に関する業務を行うことを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「国際的な連携による学生のスムーズな派遣・受入れ」を掲げています。

学生支援センター

学生生活、学生相談等に係る支援方法の開発及び実施に関する業務を行なうことを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「学生相談及び障害学生支援の充実」を掲げています。

キャリアセンター

学生のキャリア形成及び就職等に係る支援施策の企画立案及び実施に取り組み、それらの検証に関する業務を行うことを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「キャリア形成支援及び就職支援の充実」を掲げています。

入試センター

入学者選抜方法の開発及び検証並びに入試広報の実施に係る支援及び検証に関する業務を行うことを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「質の高い学生を確保するための施策の検討・改善」を掲げています。

高大接続センター

高等学校教育と大学教育との接続に関する施策を実施することを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「高大接続に関する支援事業の充実」を掲げています。

地域連携教育センター

教育における地域連携の推進に関する施策を実施することを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「地域で活躍する人材の育成」を掲げています。

アカデミック・リンク・センター（教育関係共同利用拠点認定）

共同利用教育研究施設として、電子情報環境下における能動的学習を支援するとともに、教育情報資源等の制作、活用等に関する研究開発、企画及び立案を行い、それらの成果を実施及び検証することを目的としており、重点的に実施すべき事項として、「アカデミック・リンク機能の全学的展開」を掲げています。